

巻網ミニ船団が来年誕生

コスト削減で経営効率化

巻網ミニ船団が来年、誕生する。福島漁業(青森県八戸市)の「第八十八惣寶丸(そうほう)丸」(300ト)が来年2月、石田丸漁業(茨城県波崎町)の「第八十一石田丸」(270ト)が同7月にそれぞれ竣工を予定。いずれも運搬、探査機能が付いた大中型巻網船で、船団規模は運搬船1隻を合わせた2隻体制となり、従来の網船1隻、運搬船2〜3隻、探査船1隻の計4〜5隻体制から大幅に縮小する。人件費などコスト削減などで、漁獲量が少なくとも採算の取れる経営効率型漁業を目指す。

福島漁業の「第八十八惣寶丸」 石田丸漁業「第八十一石田丸」

運搬、探査機能付き網船と運搬の2隻体制

水産庁の漁船漁業構造改革推進会議が導入を進める構造改革船として、日かつ連(石川賢広会長)の電気推進システム方式の「第八勝栄丸」(439ト)に次ぐ第2弾。第八十八惣寶丸は長さ53・1ト、幅11・6ト、深さ6・58ト。推進機関はアイハツのディーゼルで出力は2942馬力。2層甲板の鋼船で建造は三保

造船所(静岡市)。農水省は5月24日に建造を許可、7月にも起工する。第八十一石田丸は長さ41・64ト、幅10・4ト、深さ3・8ト。推進機関はヤンマーのディーゼルで出力は1471馬力。1層甲板の鋼船で井筒造船所(長崎市)で建造する。同省は5月25日に造

船を許可、10月に起工予定だ。両船とも吉野電気(大阪市)の最新の探査機能などを装備する。同行は運搬、探査機能などの試験操業後、次期一斉更新で正式導入を視野に、制度化について関係者と協議し方針を決める見通し。